

特殊村落ニ於ケル綜合檢診成績報告 (1)

耳鼻咽喉科的所見 附 寄生蟲卵檢查成績

富山縣産業組合病院

豊 田 文 一

Bunichi Toyota

倉 本 政 雄

Masao Kuramoto

(昭和17年9月16日受附)

内 容 抄 録

富山縣産業組合病院ノ農村醫療對策事業ノ一部トシテ農村ニ於ケル疾病調査ヲ行ヘリ。本稿ニ於テハ尙僂病ヲ多發シ、多數先學ニ對シ研究ノ資料ヲ提供セル富山縣氷見郡速川村ニ於テ、該村國民學校兒童ヲ對象トシ、各科綜合檢診ヲ行ヒタル成績ノ中、耳鼻咽喉科的所見及ビ寄生蟲卵檢查成績ヲ敘述セルモノニシテ、聽

器所見及ビ咽頭所見ニ於テハ特別ナル意義ヲ認メザリシモ、鼻所見ニ於テハ、各種疾患極メテ高率ニ發見シ、殊ニ萎縮性鼻炎ハ甚ダ高率ニシテ、此ノ如キ事實ハ該部落ニ於テハ尙僂病的傾向ノ殘存ヲ推察シ得ル一證左ナリト思惟ス。

目 次

第1章 緒 言

第2章 調査地並ニ調査人員

第3章 調査成績

第1節 聽器所見

第2節 鼻所見

第3節 咽頭所見

第4章 結 論

附 寄生蟲卵檢查成績

第1章 緒 言

現下ノ情勢ニ於テ人的資源ノ確保ハ極メテ緊急ナル事柄ニシテ、幾多ノ施設乃至法案ノ攻究或ハ立案セラレ、一部ハ既ニ實行ノ途ニアリ。而シテ人的資源ノ確保ハ農村ニ於ケル保健問題ト密接ナル關係ヲ有シ、農村保健ノ推移ハ時局下ノ重大命題タリ。余等ハ我が病院ノ特質使命

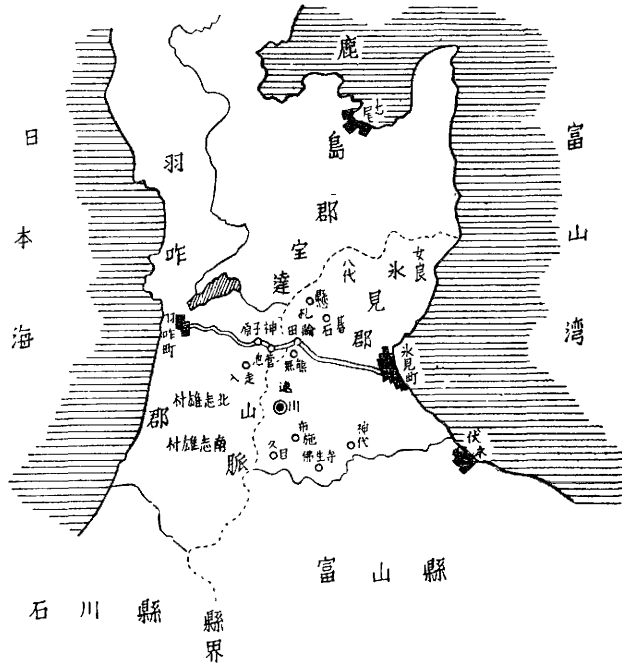
ニ鑑ミ農村保健運動ノ一端トシ、富山縣農村衛生ノ調査ニ着手セリ。余等ノ目的トスルハ各種疾病ノ調査、之ニ對スル豫防施設ノ考究ニシテ、特殊村落ニ於ケル各科領域綜合檢診ノ考察ハ今後ニ於ケル醫療對策ニ裨益スル所アラント思惟シ、本編ニ於テ耳鼻咽喉科的所見ノ大要ヲ

述べ、併せて寄生蟲卵検査成績ヲ報告セントス。

第2章 調査地並ニ調査人員

特殊村落トシテ余等ノ調査ノ対象トセル地域ハ富山縣氷見郡速川村ナリ。該村ハ氷見町ヨリ西方約14軒ノ

地點ニシテ石川縣境ニ位シ、寶達山脈ヲソノ境界トセル山村ナリ。



而シテ速川村附近村落ハ本邦ニ於ケル尙僂病問題ノ濫觴ヲナセル地域ニシテ、實ニ明治39年以來三輪、唐澤、木下、緒方、田代、中原、林、岡本、木村、下平、宮田、鬼頭、本莊、杉郎ノ諸學者ニ對シ尙僂病研究ノ資料ヲ提供セル地域ニシテ、更ニ又金大泉教授ニヨリソノ研究業績ノ發表ヲミタリ。然レ共最近ニ至リ縣當局並ニ醫師會ノ衛生指導ニヨリ漸減ノ傾向ヲ辿リツハアルハ蓋シ慶賀ノ至リナリ。余等ノ該村ヲ選ベル

ハ上述ノ如キ地方的疾患ノ存在ト村當局ノ衛生施設改善ノ指導ヲ委屬サレタルヲ以テナリ。

調査人員ハ速川國民學校初等科全兒童ニシテ、科ニヨリテハ一部學級ヲ省略セルモノモアリ。(本檢診ハ昭和15年4月ニ行ヒシモノニシテ、種々ノ事情ニヨリ發表ノ延引セルモノナリ。尙本檢診ニ際シ盡力サレタル當時村長タリシ故横山宗一氏ニ謝意ヲ表スルト共ニ同氏ノ冥福ヲ祈ル)。

第3章 調査成績

第1節 聽器所見

聽器所見ニ就キ余ノ調査セル範圍ハ耳聾栓塞、及ビ鼓膜所見ニシテ、鼓膜所見ニヨリ慢性化膿性中耳炎、鼓膜内陷、中耳炎後貽症ニ分別セリ、而シテ耳聾栓塞トセルモノハ齧子或ハ卷

綿子ヲ以テ除去不能ナル程度ノモノヲ以ツテシ、鼓膜内陷ハ光錐ノ消失セル程度以上ノモノ、中耳炎後貽症ハ強度ノ濁濁、癥痕形成、石灰沈着、乾燥性穿孔ヲ以ツテコレト定メタリ。

調査成績ノ細別ハ第1表ニ表示セリ。

第 1 表 聽器所見ノ検査成績

側	疾患		聾 聾 栓 塞		慢性化膿性中耳炎		鼓 膜 内 陷		中耳炎後胎症	
	人員	性	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
			人員	%	人員	%	人員	%	人員	%
右	人員		20	30	6	4	27	28	10	3
	%		11.2%	12.9%	3.3%	2.2%	15.1%	15.6%	5.6%	1.7%
左	人員		19	24	3	0	29	29	7	3
	%		10.6%	13.4%	1.7%	0	16.2%	16.2%	3.9%	1.7%
計	人員		39	47	9	4	56	57	17	6
	%		10.9%	13.2%	2.5%	1.1%	15.7%	15.9%	4.7%	1.7%
合 計			86		13		113		23	
			12.1%±1.16%		1.8%±0.49%		15.8%±1.36%		3.2%±0.66%	

即チ聾聾栓塞 12.1%±1.16%，慢性化膿性中耳炎 1.8%±0.49%，鼓膜内陷 15.8%±1.36%，中耳炎後胎症 3.2%±0.66%ナル成績ヲ得タリ，今之ヲ本邦諸家ニヨリ調査セラレタル成績ト比較對照シ，2，3考察ヲ加ヘントス

(1) 聾聾栓塞

學童ニ於ケル聾聾栓塞ニ就キテハ多數先進諸家ニヨリ觀察セラレタリ，之ガ主要ナルモノヲ列記スレバ第2表ノ如シ。

第 2 表 聾聾栓塞ノ統計

調査者	地域	被檢者數	百分率
大 澤	東京	9.801	40.3%
	海江田	長崎	219
高 越	岡山	812	26.0%
清 水	金澤	19.117	24.1%
西	熊本	17.749	22.7%
久 保	福岡	1.000	15.8%
山 崎	米子	949	15.5%
吉 田	東京	9.073	15.1%

即チ余ノ成績タル 12.1%ト比較スレバ諸家ノ成績遙カニ高率ヲ示スモ，各檢者ノ聾聾栓塞ニ對スル見解モ區々ニシテ，之ヲ以テ斷定スルニ躊躇スルモノナリ。

(2) 慢性化膿性中耳炎

慢性化膿性中耳炎ニ關スル諸家ノ檢索成績(第3表)ト余ノ調査セル比率トヲ比較スルニ，

第 3 表 慢性化膿性中耳炎ノ統計

調査者	被檢者數	百分率
吉 田	8.073	2.1%
大 澤	3.482	2.6%
西	17.747	2.8%
久 保	1.000	3.9%
高 越	1.270	5.0%
吉井・千田	104	9.6%

余ノ 1.8%ハ低率ナリ。慢性化膿性中耳炎ハ鼻腔，副鼻腔或ハ咽頭ノ慢性炎症ト密接ナル關係ヲ有スルモノニシテ，被檢人員ニ於テ鼻腔，副鼻腔ノ慢性炎症ニ就テハ後述スル所ナルモノナリ高率ニ現ハルハニ拘ハラズ，慢性化膿性中耳炎ノ低率ナルハ奇異ノ感ナキニシモアラズ，然レ共慢性化膿性中耳炎ト結核トノ間ニ密接ナル關係アリ，佐藤重一氏ニヨレバ小兒慢性耳漏ノ細菌學的檢索ニヨリ，ソノ¼ハ結核性ナリト云ヘリ，余等ハ被檢人員ニ對シマンントー氏反應ヲ行ヒタルニ陽性率約14%ニシテ，ソノ陽性率比較的僅少ナリ。即チ被檢人員ニ對スル結核ノ侵襲未ダ著シカラザル事實ハ慢性中耳化膿ノ低率ト一脈ノ關聯ヲ有スルモノノ如シ。

(3) 鼓膜内陷

鼓膜内陷ニ就キテ2，3ノ總計ヲ舉グレバ第4表ニ示スガ如シ。然レ共内陷ニ就キテ諸家ノ見解區々ニシテ，余ノ檢索セル 15.8%ニ比シ高

第4表 鼓膜内陷ノ統計

調査者	被検人員數	百分率
吉井・千田	104	54.8%
海江田	800	20.0%
西	17.747	20.1%

率タルモ、大ナル意義ヲ有セズ。

(4) 中耳炎後胎症

中耳炎後胎症ニ關スル諸家ノ統計的資料ナキヲ以ツテ、ソノ寡多ニ就キ言及スル能ハズ。

第2節 鼻 所 見

鼻所見ノ細別ハ第5表ニ揭示セリ。即チ慢性

第5表 鼻腔ノ検査成績

疾患		慢性鼻炎並ニ肥厚性鼻炎	慢性副鼻腔炎	萎縮性鼻炎	鼻中隔畸形
♂	人員	65	88	15	58
	%	36.3%	59.1%	8.4%	32.6%
♀	人員	75	61	21	59
	%	41.9%	34.1%	11.7%	32.8%
合計	人員	140	149	36	117
	%	39.1%±2.58%	41.3%±2.60%	10.1%±1.59%	32.7%±2.48%

鼻炎或ハ肥厚性鼻炎 39.1%±2.58%，慢性副鼻腔炎 41.3%±2.60%，萎縮性鼻炎 10.1%±1.59%，鼻中隔畸形 32.7%±2.48%ニシテ、性別的差異ハ慢性鼻炎並ニ肥厚性鼻炎、及ビ萎縮性鼻炎ハ女子ニ多く、慢性副鼻腔炎ハ男子ニ高率ニシテ、鼻中隔畸形ハ男女略同率ナリ。

鼻腔ニ於ケル病的所見ヲ先人ノ調査成績ト比較對照セシニ慢性鼻炎並ニ肥厚性鼻炎、慢性副鼻腔炎ニ於テ余ノ成績極メテ高率ナリ。(第6表、第7表参照)

萎縮性鼻炎ニ關スル統計的報告ニ就キ西氏ハ熊本市兒童 17.747名ニ於テ 1.0%，大澤氏ハ東京市神田區學童ニ於テ 2.1%，外山氏ハ京都府立第3中學生ニ於テ 0.5%ナルヲ記述シ、余ノ統計ニ比シ極メテ低率ナリ、然レ共杉崎氏ハ新

第6表 慢性鼻炎並ニ肥厚性鼻炎ノ統計

調査者	被検人員數	百分率
吉田	8.073	19.3%
西	17.747	16.1%
山崎	849	8.2%
原田	1.705	6.44%
大澤	3.482	4.5%

第7表 慢性副鼻腔炎ノ統計

調査者	被検人員數	百分率
大澤	3.482	9.3%
西	17.747	8.3%
内海	♂ 351	13.68%
	♀ 110	11.81%

潟市兒童 2642名ニ就キ調査セル所ハ約10%ノ「オツエナ」患者ヲ發見セリト云ヘルト余ノ比率ニ相似タリ。而シテ諸家ノ統計ニ比シ余ノ成績ノ高率ナル所以ヲ考察スルニ、本村ニ於テ尙僂病ノ多發セルハ既述セル所ニシテ、慢性鼻炎並ニ副鼻腔炎症ト尙僂病ノ間ニ密接ナル關係ノ存在ヲ認メラルト云ハレタリ。即チ加藤氏ハ佐渡加茂湖周圍ノ數ヶ村ニ於テ83例ノ尙僂病患者ノ耳鼻咽喉科的檢索ヲ行ヒ、萎縮性鼻炎54.2%，慢性鼻カタル」39.9%ノ高率ナルヲ報告セリ、尙僂病ノ原因ニ關シ古來幾多ノ學說アリテ未ダ歸一スルトコロナシ。然レ共一般ニ認メラル、所ハ紫外線ノ缺乏ニシテ、日光紫外線ノ缺乏ハ Vitamin Dノ發生障礙セラレ、骨ノ發育、或ハ其他ノ器管ノ機能障礙ヲ惹起スルト云ハレタリ。Kaufmannハ實驗的脂溶性 Vitamin 缺乏症ニ於テハ肥厚性篩骨蜂巢炎ヲ見、Daniels、

Armstrong and Hutton ハ「ラツテ」ノ鼻腔並ニ副鼻腔ニ顯著ナル炎症々狀ヲ認メタリト云ヘリ。又島野氏ハ白鼠ヲ Vitamin A, D. 缺乏食餌ヲ以テ飼養シ、上氣道ノ病變ヲ組織學的ニ檢索セルニ、初期ニ於テハ先ヅ粘膜下腺細胞ノ退行性變性ヲ認メ、次第ニ腺細胞減少ス、次デ粘膜細胞ノ乾燥、結痂、上皮細胞ノ脱落ヲ認ム。更ニ細胞浸潤ヲ來シ化膿性炎症ヲ惹起シ、粘膜ハ著シク萎縮シ、上皮細胞ハ扁平化シ、表層ノ角化充進アリ、骨組織ハ骨破壊、呼吸機轉、結締織化等ノ著明ナル萎縮ノ像ヲ示ス。尙副鼻腔ハ粘膜扁平化セズ、反ツテ腫脹シ屢々腔内ニ滲出物ヲ滿タスト云ヘリ。尙僂病ノ成因トシテ Vitamin D ノ缺乏ヲ考慮スルトセバ、余ノ調査セル鼻腔内景ノ病變ハ本村ニ於ケル尙僂病多發ノ傾向ヲ推測シ得ルモノノ如シ。

第8表 鼻中隔彎曲ノ統計

調査者	被檢人員數	百分率
西	17.747	26.1%
大澤	3.482	13.5%
海江田	219	8.0%
山崎	849	1.3%

次ニ余ハ鼻中隔彎曲ニ就キ觀察セルニ 32.7%ナル數値ヲ得タリ、先人ノ檢索成績ニ比シ(第8表)甚シキ高率ナリ。鼻中隔彎曲型ノ成因ニ關シ多數ノ學說アルモ、外傷說及ピ口蓋骨發育異常說ハ一般ニ認メラル、所ナリ。Nelson, Black ハ鼻中隔彎曲症ノ成立ト尙僂病性患疾トハ密接ナル關係アリテ口蓋ノ上昇ニ基因スルモノナルベシト云ヘリ。

加藤氏モ實驗的尙僂病家兔ニ於テ屢々著明ナル鼻中隔ノ彎曲ヲ見タリト敘述セリ。即チ本村兒童ニ於テ鼻中隔彎曲ノ高率ナルハ尙僂病的傾向ノ殘存ヲ物語ルー事實タルベシ。

第3節 咽頭所見

余ハ咽頭所見ニ就キ口蓋扁桃腺並ニ咽頭扁桃腺ニ觀察ノ重點ヲ置キタリ。檢査成績第9表、第10表ノ如シ。

第9表 口蓋扁桃腺ノ檢査成績

程度 性別	+	++	+++	計	百分率
♂	24	17	8	49	27.4%
♀	22	24	10	56	31.3%
合計	46	41	18	105	29.3% ±2.41%

第10表 咽頭扁桃腺ノ檢査成績

程度 性別	+	++	+++	計	百分率
♂	30	25	2	57	32.2%
♀	22	34	3	59	32.4%
合計	52	59	5	116	32.3% ±2.47%

第11表 口蓋扁桃腺肥大ノ統計

調査者	被檢人員數	百分率
鵜木	♂ 424	38.2%
	♀ 350	35.1%
内海	♂ 351	35.0%
	♀ 110	30.0%
大澤	3482	32.3%
西	17747	30.6%
原田	1692	21.2%
清水	19117	17.8%
吉田	8073	10.9%

第12表 咽頭扁桃腺肥大ノ統計

調査者	被檢人員數	百分率
高越	812	39.0%
石丸	♂ 3867	23.0%
	♀ 3145	28.0%
山崎	849	26.5%
清水	19114	17.8%
西	17747	14.2%

即チ口蓋扁桃腺肥大ヲ認ムルモノ 29.3%ニシテ、之ヲ先人ノ調査セル成績(第11表)ニ比較スルニ稍高率ノ傾向ニアリ。又咽頭扁桃腺肥大ハ 32.3%±2.47%ニシテ、先人ノ調査セル成績ノ 2, 3ニ對比スルニ可ナリ高率ナルヲ知レリ、

加藤氏ガ尙僂病患者ニ就キ咽頭ノ淋巴腺系統ニ關シ検索セル成績ハ、咽頭ハ慢性疾患ヲ有スルモノ甚ダ多ク、咽頭淋巴輪ノ著明ニ腫脹セルモノ亦多數ナリ。殊ニ口蓋扁桃腺ノ肥大ハ41.0%ノ高率ヲ示セリト云ヘリ。然レ共猿渡氏ハ脂溶性 Vitamin ノ扁桃腺組織ニ及ボス作用ヲ檢シ、幼弱家兎ヲ暗室内ニ飼養シテ、雪花菜ノ偏食ヲナサシメ、實驗的尙僂病ヲ惹起センムル時、其ノ扁桃腺ノ淋巴濾胞ハ、他ノ淋巴性器管

ノ夫レト共ニ萎縮性變化ヲ示シ、且ツ扁桃腺ニ限リ多核白血球ノ浸潤高度ナルヲ特異トスト述ベタリ。即チ猿渡氏ノ實驗的研究ハ加藤氏ノ臨狀觀察例ト相反スル結果ナルヲ知ル。余等ノ觀察セル成績ニ於テモ口蓋扁桃腺並ニ咽扁桃腺ノ肥大稍高率ナル原因ニ就キ地方の傾向ナリヤ否ヤニ關シテハ、余等ハ今後多數ノ臨牀例ニヨリ解決セント思惟スルモノナリ。

第4章 結 論

余等ノ尙僂病ノ多發セル特殊村落ニ於テ、國民學校兒童ノ耳鼻咽喉科的所見ノ検査ヲ行ヒ次ノ如キ結論ヲ得タリ。

(1) 聽器所見ハ聴聾栓塞 12.1%±1.16%、慢性化膿性中耳炎 1.8%±0.49%、鼓膜内陷 15.8%±1.36%、中耳炎後胎症 3.2%±0.66%ナル成績ヲ得タリ。

(2) 鼻所見ハ慢性單純性鼻炎或ハ肥厚性鼻炎 39.1%±2.58%、慢性副鼻腔炎 41.3%±2.60%、萎縮性鼻炎 10.1%±1.59%、鼻中隔畸型 32.

7%±2.48%、ナル成績ヲ得タリ。

(3) 咽頭所見ハ口蓋扁桃腺肥大 29.3±2.41%、咽頭扁桃腺肥大 32.3%±2.47%ナル成績ヲ得タリ。

以上ノ所見ヨリ綜合考察スルニ聽器所見及ビ咽頭所見ニ於テハ特別ナル意義ヲ認メ得ザルモ、鼻所見ニ於テハ諸家ノ報告ニ比シ、各種疾患極メテ高率ニシテ、殊ニ萎縮性鼻炎ノ高率ナルハ該部落ニ於テハ尙僂病的傾向ノ殘存ヲ推察シ得ル一事實ナルベシ。

附 寄生蟲卵検査成績

氷見郡速川村ニ於ケル同村國民學校兒童ノ綜合檢診實施ニ際シ糞便ニ就キ寄生蟲卵検査ヲ行ヘリ。被檢者ハ同村小久米國民學校第五六學年兒童78名(全兒童ノ22.8%ニ當ル)、並ニ山間部ニ在ル床鍋分校兒童46名、合計124名ニシテ、糞便少量ニスギ乾燥シ検査ニ不適ノモノ多ク之ヲ除外セルタメ被檢人員少キハ遺憾ナルモ、參考迄ニ其ノ成績ヲ概略報告ス。

檢出セラレタル蟲卵ハ蛔蟲34名(43.6%)ニシテ被檢人員ノ略手數ニ近ク、次ニ鞭蟲8名(10.2%)ナリ。此ノ中兩蟲卵ヲ有スル者5名(6.4%)ヲ認メタリ。學年別ニ之ヲ觀レバ蛔蟲卵ハ第6年生ニ多ク、鞭蟲卵ハ第5年生遙カニ多ク第6年生ニ比シ約3.5倍ニ相當セリ。性別ニ見ルモ

特殊關係ヲ見出シ得ズ。(第1表)

第1表 小久米國民學校兒童糞便検査成績

	被檢人員	蛔 蟲 卵		鞭 蟲 卵	
		名	率	名	率
6年男子	21	11	52.4%	1	4.7%
6年女子	21	9	42.9%	1	4.7%
5年男子	18	7	38.9%	3	16.7%
5年女子	18	7	38.9%	3	16.7%
計	78	34	(43.6%)	8	(10.2%)

次ニ床鍋分校兒童ニ就キ觀察スルニ、最モ多ク檢出セシハ前者同様、蛔蟲卵ニシテ35名(75.1%)ナリ。次デ東洋毛様線蟲卵11名(23.9%)鞭蟲卵10名(21.7%)ナリ。此ノ中蛔蟲卵、鞭蟲卵

ヲ有スルモノ、蛔蟲卵並ニ東洋毛様線蟲卵ヲ有スルモノ夫々9名(19.6%)ニシテ3蟲卵ヲ有ス

ルモノ發見シ得ズ。小久米校兒童ニ比シ蛔蟲卵ノ高率ニ見出サル、コトハ注目スベキ點ナリト考ヘラル。

第2表 床鍋國民學校兒童糞便檢査成績

	被檢人員	蛔蟲卵		鞭蟲卵		東洋毛様線蟲卵	
		数	率	数	率	数	率
6年	9	6	66.7%	2	22.2%	0	—
5年	8	5	62.5%	0	—	1	12.5%
4年	4	3	75.0%	0	—	1	25.0%
3年	7	6	85.7%	3	42.9%	0	—
2年	10	9	90.0%	3	30.0%	5	50.0%
1年	8	6	66.7%	2	25.0%	4	50.0%
計	46	35	(75.1%)	10	(21.7%)	11	(23.9%)

之ヲ要スルニ本檢査ニヨリ檢出セラレタル蟲卵ハ。小久米校ニ於テハ蛔蟲卵、鞭蟲卵ノ二種、床鍋校ニ於テハ更ニ東洋毛様線蟲卵ノ三種ニシテ、兩校共ニ蛔蟲卵ハ最高率ニ發見セラレタリ。而シテ蛔蟲卵ト鞭蟲卵、或ハ東洋毛様線蟲卵トヲ有スルモノハ見出シ得タルモ、三者ヲ有スルモノハ認め得ザリキ。

擧筆スルニ當リ、御校関連ニ御教示ヲ忝フセル松田教授ニ深甚ナル謝意ヲ表ス。